

地域公共交通の課題と展望

～JR連合地方議員とともに考える地域交通のあり方～

VOL. 7 岐阜県瑞穂市（広瀬市議）

■岐阜県瑞穂市における公共交通の状況

岐阜県瑞穂市は岐阜市の西隣に位置し、東海道本線穂積駅を中心として広がる地方都市である。他の市町村とは異なり、近年においても人口増加が見られる珍しい都市である。人口増加の原因としては、同市が名古屋や岐阜のベッドタウンとしての立地的メリットを強めている点が上げられる。そのため同市においては、穂積駅を中心とする公共交通の充実強化が市における重要な政策課題に挙げられている。

■同市の抱える公共交通の課題

6月5日、JR連合及びJR東海ユニオンはJR連合地方議員団連絡会に所属する広瀬瑞穂市議会議員を訪問し、瑞穂市における公共交通の実態について実地調査及び意見交換を行った。穂積駅で待ち受けていた広瀬議員からは、穂積駅の南北にある前広場が慢性的に交通渋滞を引き起こし、同市において大きな課題となっている旨の報告がなされた。同市の人口増加に伴い穂積駅を利用した通勤通学のお客様が年々増加する一方で、その受け皿としての域内交通の整備が整っておらず、結果として自家用車での送り迎えが頻繁になされているが故、特に朝夕は駅前広場が自家用車でごった返している状況となっているとのこと。事実、市議とともに同日夕刻に実地調査したところ、同日は雨天であったこともあり、送り迎えの自家用車によって想像以上の渋滞が発生していた。

その後広瀬市議とともに域内交通の軸をなすコミュニティーバスに乗車した。民間バスに委託する形で展開する同市コミュニティーバスは、市内を巡回する形で路線設定されているが、我々が乗車したデertime時の乗車人員は数えるほどしかいなかった。下車後、広瀬議員より乗車人員の低位が市財政を圧迫しており、この点も大きな課題になっている点が指摘された。

■瑞穂市交通政策担当者との意見交換

その後広瀬市議とともに瑞穂市を訪問し、同市の交通政策担当者との意見交換を展開した。同市では交通政策を総務課が担当している。人材に余力が無いため、総務課が他の業務と兼務という形で従事しているとのことであった。結局交通政策を煮詰めるといっても専任で従事するわけにはいかず、片手間での業務になっている。政府が今後の交通政策展開の主体として市町村を据えているものの、同市も他の地方都市と同様公共交通に熟知した専門

的人材を配置できない実態を伺い、中央と地方の実態の乖離を強く感じる場所であった。

そうはいうものの、住民から、穂積駅を中心とした公共交通の充実強化に対する強い要望が出されており、同市における公共交通の充実強化は目下重要政策課題として取り扱われている。とりわけ、穂積駅周辺における慢性的な交通渋滞が問題となっており、その解消に速やかに取り組む



必要性が生じている。そのため、コミュニティーバスの充実強化が喫緊の政策課題であるが、バス運行には相応の財政負担が強いられるため、なかなか計画が前に進まないとのことであった。また、穂積駅は同市のみならず近隣市町村からの利用者が多く存在しているものの、そうした市町村を跨った公共交通の設定までは起草できておらず、市担当者からは今後の課題として示されたところである。

一方、データイムでも毎時4本運行となっている東海道本線のダイヤ設定に対しては住民からも高い評価が示されているとのことであった。今後も同ダイヤ設定の維持を市として要望しているが、同市担当者の認識は、そうした頻度の高い列車ダイヤと域内交通を如何に有機的に連携させるかという点であった。その実現こそ、同市の魅力を高め、更なる人口流入をもたらすものであるとの立場であった。

■市町村の特徴に即した交通政策の実現を！

今回の訪問は、充実した都市間輸送を展開するJRと域内交通をどのように有機的に展開していくかというケースについて見聞することができた。この問題は確かに当該市町村の課題かもしれないが、我々サイドで考えれば、そうした市町村との連携強化が、更なる鉄道の利用者増加をもたらす、いわばWIN-WINの関係をもたらすものと確信する。

JR連合は今回の実態把握で得られた知見を十分受け止めつつ、チーム公共交通の形成に向け現場実態に即した政策立案を展開していく。